

# 強制収用の危機せまる 基地 百里

百里基地問題研究会

## 茨城県東茨城郡小川町百里ヶ原

そこには、いま背丈をこすカヤの原に lindow の花が咲き、遠い筑波嶺に牛がうそぶいている。カヤ原の中にある麦まきをおえたばかりの畑、そして農家。

ここに戦後 17 年の開拓生活にたえ、8 年目の基地闘争の中で風雪にきたえられた百里の農民たち、百里で生れ百里で育ってきた子どもたちが滑走路のない百里基地をわらいながらたくましく生きている。

この百里にケネディが、池田が、朴（パク・チョンヒ）が、防衛庁が、またしても厳しい冷い、狂風をふきこんできた。

## 『10月21日』の挑戦状

ケネディがキューバの海上封鎖を声明する前日、日本では、南朝鮮のフアシスト金鐘泌（キム・ジョンピル）との会談がすすめられていた。その日、10月21日（1962年）、日本全国百万の人々が米軍基地をとりかこみ、「日韓会談粉砕」「米軍基地撤去」「ヤンキーゴーホーム」「物価値上げ反対！首切り反対！ 農民の六割切捨て反対！ 生活と民主主義を守れ！」と大統一行動の巨歩をふみだした。関東では、12万人の人たちが横田（ジョンソン）基地を、“祖国よ誇りたかくあれ”と力強く10キロに及ぶ隊列でとりまいた。

だがその直後・・・

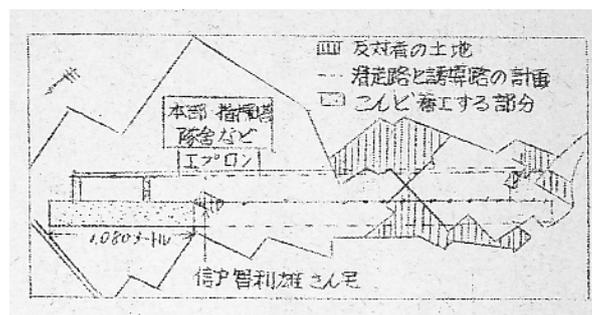
その日の夕刊（東京新聞）はトップ記事に「今月末から百里基地建設」憲法をふみ破って「土地収用法を適用」し「ジェット戦闘機配備」をする池田政府（防衛庁）の態度を明らかにした。そしてまた翌日、アメリカは国際法に違反してキューバの海上封鎖、強盗的侵略の意図をあらわし、これとあわせてデッチアゲ非合法政府の金鐘泌は池田会談後アメリカへ飛んだ。

日本人の敵どもが、自分たちのつくった法律さえふみにじり、平静さを失って戦争を軍国主義化をくるしくすすめる中で、百里基地がまたもや重大な焦点になった。

防衛庁の計画はこうである。「百里に、コントロールタワーなどの施設をつくれれば彼らはあきらめると思ったが、そこでヘリコプターの轟音でおどしたが無駄だった。甘い話にもものってこない。そこで今度はまず38年度内に、家のまんまえまで滑走路千八十メートルをつくる。これに2億円かける（幅45メートルの滑走路1メートルつくるのに20万円！）。

そしてできれば飛行機でもとばしておどかしてやろう。そして『速く出た方がオトクですよ』と釣ってみよう。しかし、それだけではダメかも知れない。建設大臣に強制収用の申請をだし、岩上県知事や県議員に賛成させて（この点ではすでに「一応の了解をとりつけることに成功した」と11月21日の東京新聞は報道）強制収用でとりあげる。

そして来年度中には2400メートルの滑走路をつくり、F104J ジェット機2飛行隊（40機）を39年度中入れると。（図参照）



## キチガイジミタ資材搬入がはじまった！

さっそく工事を西松建設に落札させた防衛庁は、11月6日、10時、わざわざ遠まわりで三里ほどはなれた茨城町国道に東京ナンバーのトラック20台、土建労務者をのせたバス1台とブルドーザーを結集し、空からはヘリコプター2機が見張り小川、白河などに県警機動隊と石岡署員各30名を配備、百里自衛隊にも身をかためさせ、要所に私服を配置して、ジープを先頭にもものしく百里にのりこんだ。そして運びこんだものは“飯場の建設資材”“夜具”などが主なものとはア

キれたもの。これはどれほど基地建設がみんなからイヤがられ、どれほど基地建設がキチガイじみですすめられているかをコッケイまでに証明した。「末路の支配者ほど大衆をおそれ大衆にきびしくあたる」歴史の教えがくりかえされた。ついでだが滑空訓練をやっていた大学生たちはたちまち6日の夕方東京へかえらされてしまった。

着いた労務者はオバケ屋敷のような飯場に入れられ「あんなブタ小屋みてえなところにするか」とこぼすことこぼすこと。

11日までに基地内に飯場を新設し、12日から工事にかかるつもりらしい。

## 滑走路のない基地百里

いま百里には、高いコントロールタワー、格納庫、庁舎その他4年も前からでき上っている施設があるが、かんじんかなめの滑走路がない。(いまあるのは誘導路)それはその滑走路予定地のドマン中に、信戸智利雄百里基地反対同盟委員長が頑張っているし、野原平さん、高塚清さん、渡辺辰之介さん、高橋与左通さん、倉田徳寿さん、倉田勝雄さんが続き、いわゆる“7人の侍”が起居しているも、更に滑走路予定地を耕作している人々がいるからである。

そして、8年間にわたるこれと手をくんだ小川町民の戦い(基地反対の女町長山西きよさんを当選させた) 全県・全国の平和民主勢力の戦いがあるためである。

今百里は自衛隊の新兵の訓練所であり、慶応・立教・日大グライダー部の練習所であり、土浦陸上自衛隊のヘリコプターの発着訓練所になっている。これ位のことしかできない。第五戦闘航空団基地なのである。アメリカや池田に防衛庁がおこられ基地化促進をせまられるのも「無理のない話」かも知れない。

## トテツもない防衛庁の計画 九町歩の大弾薬庫

防衛庁の計画は当面、第一次計画の工事しかも滑走路をつくることに集中されている。しかし、彼らの計画では第二次までふくめると、トテツもなく大きなもので新小川町の三分の一をしめる大基地化をめざしている。新小川は三ヶ町村の合併であるから旧村一つを呑みこんだ大きなものである。各基地を歩いたある基地の専門家は「この大きなコントロールタワーは、恐ろしく膨大な基地で使うためにたてられている」といっている。

それを証明するかのように第一次計画の中にふくまれる円形の弾薬庫予定地は半径170㍎(九町歩強)のほか、円形のPOL予定地に(恐らくガソリン地下タンクともいわれている)半径100㍎(三町歩強)が計画されている。

“原水爆を入れる?”という背すじの寒くなる予想が識者の間で噂されている。

## ナイキと結びF104Jジェット配備

今防衛庁が百里を急いでいるもう一つの理由は、今秋、いわゆる“首都圏防衛”の美名のもとに土浦、習志野、入間、武山にナイキアジャクスの基地をつくり、これと関連して、ぜひとも百里にF104Jジェット戦闘機を配置しなければならなくなったということからである。

だから百里基地化の推進は自衛隊核武装化であるとともにアメリカ、日本の軍国主義者による核戦争準備の推進を意味する。

## 茨城町や銚田・出島でもウルサイF104J

F104Jジェット戦闘機はご存知の通り音の2倍から2.5倍のはやさで飛ぶ。そのウルサイことといったらジェット機が低空で飛ぶ時は、ハナとハナをくっつけて大声で話しあっても十分ききとれないほどの音であり、そのテスト音は二里三里先でもサワガシイ。このウルサイ奴を来年基地ができたなら39年度に40機もってくるというのである。

こころみに音速の二倍として百里を中心に円をかいておおよその目安をたててみた。(図参照)

6,800㍎(一里30丁)、15秒で10キロ200㍎(二里半)、20秒で13,600㍎(三里17丁)ということになる。実際に滑走路の方向を軸にして離着陸するのでもっと変化した形になるだろう。

そのほか基地直接の被害はまだまだある。

## 基地は町政をメチャメチャにしてきた！

小川町財政不正問題はいま八文字収入役だけにしぼられ、県の責任も、防衛庁の責任も、幡谷仙三郎氏の責任もそのままにされ、石岡警察も、“何しろ政治問題で根が深いから”と完全な解決の自信をもっていない。そして町民は一人当たり八千円にも及ぶ赤字をアナウメさせられているのである。

## 憲法違反の強制収用

土地収用法の適用とは、次のようなことになる。まず防衛庁が河野一郎建設大臣に事業認定の申請をし、強制収用がしたいと申し出る。(土地収用法 18 条) 河野建設大臣はこれがいかがわるいか認定する (同法 26 条) その後地元と防衛庁が話をすすめて茨城の土地収用委員会で (岩上知事の責任) で黒白をつける。だから防衛庁は、岩上知事と県会議員の内諾を得るために走りまわったわけである。

しかし、土地収用法を認定する 26 条には“自衛隊”という違憲のものが土地を強制的にとりあげてよいという項目はない。“公共の利益”というでたらめをつかわなくてはならない。

自衛隊が憲法違反である限り土地収用法の適用も憲法違反である。

## おそいかかるヨタモノに 六法全書を示してもなぐられる！

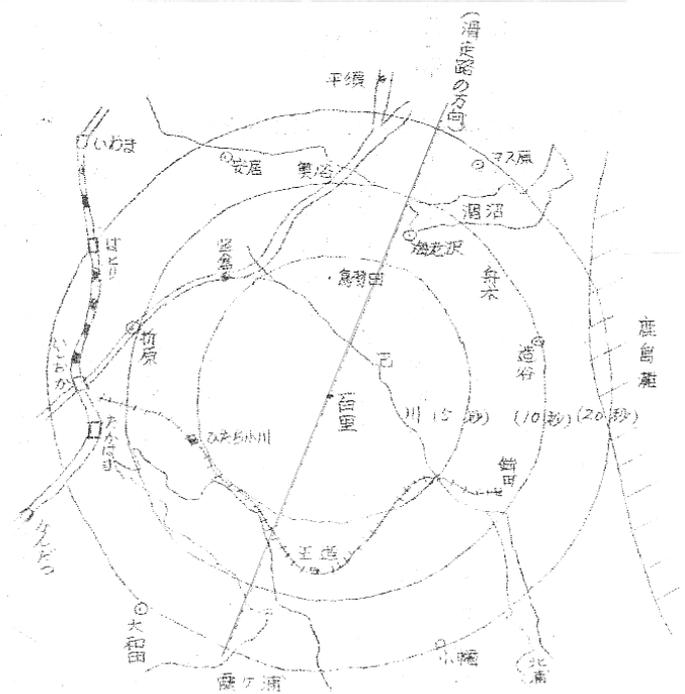
しかし、12 年の歴史をふんだ自衛隊は憲法違反をよそにしたてられ、去る 11 月 2 日には水戸でも戦車入りのパレードがおこなわれ、市や県のおえらい方がこれを閲兵している。町村役場は自衛隊事務をあつかい募集に大わらわで憲法違反その他自らのつくった法を無視したやり方をはじめ日本の軍国化の最近の方向をみるなら“法”を守ってくれるだろうとあてにしてはられない。おそいかかるヨタモノに六法全書を示し、“暴力行為は法で禁止されています”といっても安心していられるだろうか？

それどころではない。この“ヨタモノ”は国家権力をつかい、法律をつくって戦争、軍国主義化の方向をすすめる、むしろこれを機会にさらに憲法違反の既成事実千斤の重みを加え、憲法改悪をすすめるようとしている。

基地についても基地への協力を義務づける“基地基本法”をつくり基地反対運動を法律でおさえつけようとしている。どうしても正しいものが団結してこのヨタモノのオヤブンの手足をしばりあげねば安心して暮せない。

## 曖昧な岩上知事

土地収用に関して重要な位置にある岩上知事は、(建設大臣が認定した場合公示する立場にある) 茨城県民全体に、いや日本全体に大きな影響を与える。土地収用に関して「憲法違反だし、戦争への道を更にすすめるから」ということで土地収用の公示を拒否できる立場にある。工事再開についても態度を表明できる立場にある。だが彼はそうは言わない。「地元と防衛庁の間」での話し合いによって解決をはからせる」方向をとっている。小川の基地誘致派によって立てられた宮内町長も同じことを言っている。地元さえ承認すれば基地接収を強引にすすめてもよいというのだ。これは地元が、基地工事再開でおいつめられるのを更に促進しているにほかならない。



現に資材搬入に、“県警機動隊”を入れさせて、何ら顧りみない岩上知事が本気で茨城県民のことを考え、日本の平和と独立と民主主義と県民の生活を考えているとは思えない。知事と県会の一応の了解をとりつけたという防衛庁の工作はどうも本当らしい。

ヨタモノしぼりは岩上知事にはまかせられない。岩上知事もヨタモノの仲間ではないだろうか？

## 分列あおるマスコミ

去る11月5日の“いばらき新聞”朝刊は、百里基地七人の侍の中「五農家が脱落？」と一面トップで報じている。そして次の日六日に“資材搬入”がおこなわれた。これは明かに県下の支援勢力を腰折れさせるための防衛庁の策略に違いない。

当人たちはカンカン、早速、新聞のだされた五日に会議をひらき、この事を報じた各社に厳重に抗議を行っている。これは百里基地反対に結集している人たちが小異をこえて戦かおうとするところに水をさしている。サンデー毎日の記事にしても共産党小川地区責任者岡部長正氏が山西きよさんに苦言をのべたことになっている。当の岡部氏は「こんなことは言わない、全く逆のことが書いている。こんな分裂的ないい方をした覚えはない」と早速サンデー毎日に抗議している。これに類したことは今迄に沢山あった。しかし最近のやり方はとくに手がこんでいる。ヨタモノのやり口は巧妙になったことに注意を払わなければいけない。

## 百里基地の問題は 働くものみんなの問題

百里問題は、“七人の侍”だけの死活問題ではない。また、直接ジェット音その他の被害をこうむる人たちだけの問題でもない。ケネディと池田の軍国主義化の政策に苦しむ人たちも全部の問題である。“支援”ではなく、“自分たちの問題として戦う”といった方が正確である。

たとえばニコヨンの人たちの「失対事業打切りをやめさせる」ことと百里闘争は直接つながっている。農産物の価格保障を要求する農民、首切り合理化に反対する労働者の要求はそのまま百里の戦いでも勝たなければ貫けない。まだまだいくらかもある。そして、日韓会談粉碎の戦いも、憲法改悪反対の戦いでも百里闘争を通じて更に強化される関係にある。

みんなの団結で百里基地の撤去をかちとろう。

百里の強制収用をやらずまい。百里基地の工事をやめさせよう！

## どう団結し、どうして勝つか？

法律だけをあてにもできぬ、知事もたよれない。ほんとうに、平和を愛し、独立をねがい、民主主義を守り、生活擁護をねがう人々が、自分自身で立ち上らなければならない。勇気をもって正しく力強くそして冷静な判断で団結しなければならない。

それにはどうしても統一戦線に団結しなければならない。そして全国の人たちとともに大もとの敵、ケネディと池田のやり方をやめさせなければならない。そして、それはできる。“安保のように”やってすすめば、そしてそれははじまっている。日韓会談粉碎を中心に、全国安保共闘は再開された。

茨城では、12月16日に百里基地に県民が総結集して戦う実行委員会が有志によってつくられた。更に部落に、町に、地域に12・16実行委員会がつくられつつある。

いたるところに部落に職場に町に、12・16実行委員会をつくろう。そして直ちにビラはり、署名、激励、抗議、集会などさまざまな活動を展開し、12・16へもりあげよう。

基地の直接の被害をうける人たちは直接被害の要求で（例えばジェット音や工事再開にともなうダンプカーによる交通事故、道路破壊など）労働者は労働者の要求で（例えばニコヨンは「失対うちきり反対を百里で戦おう」など）農民は農民の要求で（例えば「農産物価格保障を百里で戦おう」など）その他何百もの要求をよりあわせ、戦いをつみあげて百里基地反対の旗をかかげて12・16に結集しよう。そしてこの根元ケネディと池田のすすめる日韓会談、核武装、民主主義と生活の破壊に対決し、統一戦線への力強い足音をとどろかせて前進しよう。

この統一行動、統一戦線こそが、米・日戦争どものもつとも恐ろしい力である。百里工事再開やめろ、強制収用絶対反対、百里基地撤去、日韓会談粉碎、核武装阻止、完全軍縮、民主主義と生活

を守れの戦いを12・16にむけて雪ダルマ式に運動をもりあげよう！

全県民の支持とたたかいのもとに12・16の大運動をかちとろう。これこそ当面の団結の方向であり、勝つ方向であり、将来力強い統一戦線をつくりあげて、平和、独立、民主主義、中立の日本をつくりあげるための当面の最も効果的な努力点である。

敵の嵐はあれくるっている。生活もますます苦しくなっている。戦争の危険も身近に感じられる。しかし、これは、戦争屋どもが強くなったからではない。

逆に平和と独立と民主主義と豊かな生活を求める声が強まるなかでかれらがアセってきちがいじみてきているためである。

苦しさにまげず、嵐の中に戦争屋のよわさをみぬき顔をあげ、希望をもって前進しよう。

## 夜あけ前は暗い だが あかつきはくる

### 編集後記

当面、いそいで間にあわせるために、触れなければならないことを書かなかつたし、もっと詳細を知りたい人々のためには不満足なものに違いない。更にこの運動の発展のなかでもっと内容の充実したものをつくり、発展的に不満足な点を充実させる予定である。

きびしいご意見、ご注文をきかせていただきたい。

この冊子は、1962年12月16日に開催された「百里大集会」の成功に向けての参考資料的に作成されたものと推測(1962年10月以降)します。集会参加者は7,500名が参加しました。

原本は、手書きの「ガリ版刷り」です。そこで見やすくするために活字化したものです。百里のたたかいの初期的な段階で作られた貴重な資料と思い、複製版として作成してみました。当時の頒布価格は、1部30円となっています。尚、強制収用問題は立ち消えとなりました。

尚、事実関係で資料によって若干異なる部分などがありますので今後精査する必要があると思います。

2021年9月 中山尚治

注 ニコヨンとは：日雇い労働者の一日の賃金(日額・240円)

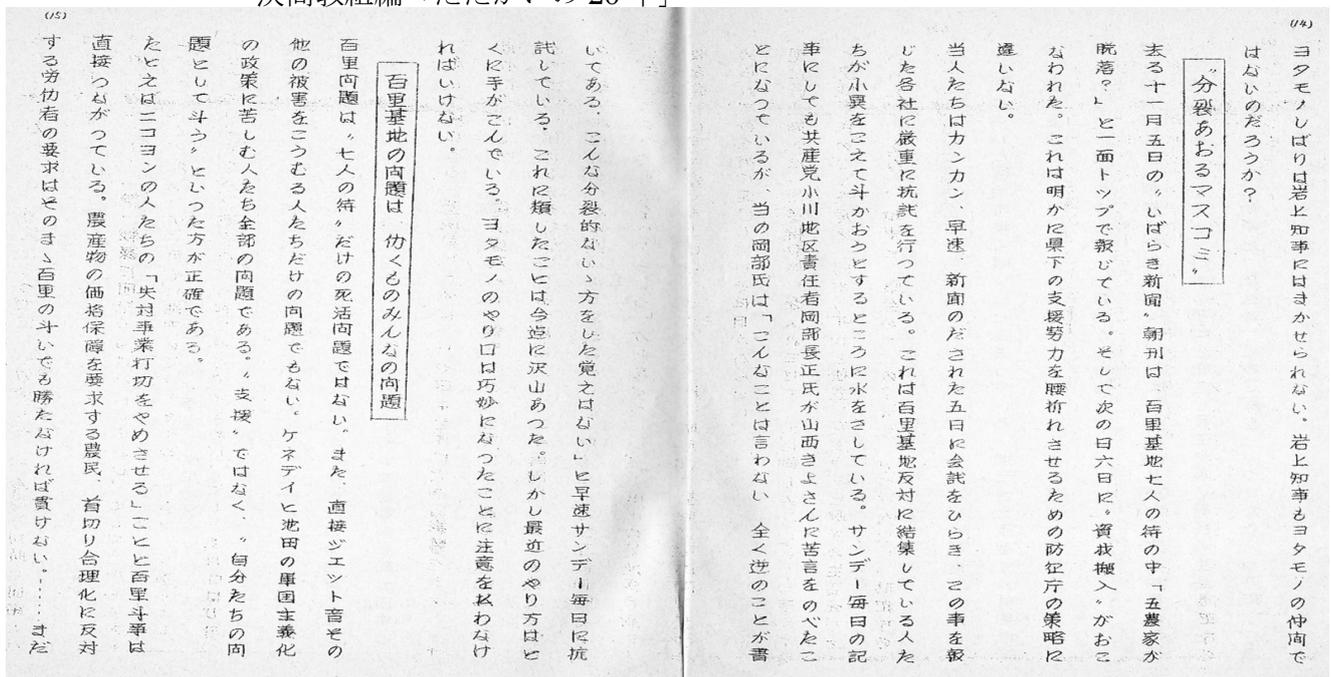
失対事業「失対」とは：失業対策事業の略称

1町(面積)は：9,917 m<sup>2</sup> (1町=1万平方町=1町25歩)

1丁は：109町

1里は：3,927.27町(約4,000町=約4km)

参考資料：百里問題懇談会編「憲法違反の自衛隊 百里基地」、百里平和委員会編「百里」  
茨高教組編「たたかいの20年」





新一坪運動地(旧射撃場山)から基地をにらむ「自衛隊は憲法違反」の看板  
(種子敬二撮影)

# 自衛隊は憲法違反